



煤ヶ谷駐在所

厚木警察署
煤ヶ谷駐在所
編集 * 渡部信二
Tel 046-223-0110

伊勢志摩サミット等開催に伴う警戒警備等に御協力を

○伊勢志摩サミット(第42回主要国首脳会議)が今年5月26日及び27日に三重県志摩市で開催されます。また外務大臣、財務大臣等の閣僚会合が国内10か所で開催されます。

主要国の首脳が一堂に会するサミットは、国際テロ組織、反グローバリズムを掲げる過激な勢力、過激派等が「テロ・ゲリラ」や暴動等の事件を実行する格好の機会と捉えています。このような中、昨年11月には、フランス・パリにおいて連続テロ事件が発生しました。このテロを実行したとされるISIL(いわゆる「イスラム国」)は、わが国や邦人をテロの標的として挙げるなど、伊勢志摩サミット等を取り巻く情勢は一段と厳しくなっています。また、平成17年の英国におけるグレンイーグルズ・サミット開催時には、開催地から遠く離れた首都ロンドンで爆発テロ事件が発生した事を鑑みれば、伊勢志摩サミット等の開催地に限らず、首都圏に位置する本県においても、重要施設や公共交通機関等に対する「テロ・ゲリラ」事件の発生が懸念されます。

○神奈川県警察では、「テロ・ゲリラ」事件等を未然に防止し、県民の安全と安心を確保するため、多くの人が密集する公共交通機関や繁華街などに対する広範囲な警備を行っております。警戒警備期間中は、パトロール、検問、職務質問等の警察活動を強化しますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

また、「不審な人物」「不審な車(物)」等を見かけたときは、110番通報又は最寄りの警察署・交番・駐在所にご連絡をお願いします。

高齢者が交通事故の被害者、加害者にならないために！！

～高齢者による交通事故急増中です！！～

平成二十七年(2015年)度県内で交通事故により亡くなった六五才以上の高齢者の方は七〇人で、交通事故死者全体の約四割を占めており、全国では五割を超えています。特に歩行中に亡くなられた方は、五〇人で、前年の同じ時期に比べ一〇人増加しているほか、歩行中の死者全体の約六割を超えるなど、高齢歩行者の方が被害者にならないための対策は、県警における喫緊の課題です。また高齢運転者は年々増加傾向にあり、平成二十七年十二月末現在、六五歳以上の高齢運転者の方が加害者となる交通事故は三九件で、前年の同じ時期に比べて一件減少するものの今後増加が予想されます。車を運転する高齢者の方の増加に伴って、高齢者やその家族から相談を受けた際は、運転免許の自主返納制度を案内しています。※高齢歩行者の関係を交通事故は、午後四時から午後八時までの時間帯に多発しており、また事故に遭う原因として多いのは、無理な横断や信号無視といった基本的かつ、当たり前の事が守られていない状況が多くなっております。歩行者も今一つ注意をしていけば車を運転する方も歩行者も今一つ注意をしていけば歩行者に対する優しさや思いやりを持っていければ避けられた事故も多いのです。○交通事故に遭わないために県警では、高齢者の方が被害者とならないための対策として、歩行シミュレーター等の活動による安全な道路横断の体験加齢に伴う身体機能の変化が、道路における交通行動に及ぼす影響等の理解の醸成運転免許を保有していないなど、交通安全教育を受ける機会が少ない高齢者に対する教育の機会の確保等に留意した安全教育や広報啓発等を推進しています。

事件記録板

12月中の事件は、

◎ 遺留品

12月8日、舟沢地区で厚木市内で発生した自転車盗の被害品が放置されるとい事件がありました。

この自転車は、厚木市内の自宅マンション駐輪場に鍵を掛けずに止めていて被害に遭っています。ちょっとに時間だから、買い物に來ただけなどと思わず鍵を掛ける習慣をつける事で防げます。

※

また1月中旬に下水道の「点検商法」とも思える下水道業者が煤ヶ谷に周っていました。宅地内の配管設備の清掃や管理は、その所有者が行うことになっています。通常の使い方をしている限り、話ったり壊れたりすることは、ほとんどありません。濁りや匂いの抑制のために、薬品を配布することはありません！！

※

排水設備の点検を勧められても、必要がなければ、きちんと断りましょう。

駐在所の独り言

～夫婦仲良く、また介護に苦勞されている方に～

以前、とても悲しく心に痛む物語を目にしたので紹介します。不倫をしていた夫が不倫相手と再婚を決意し妻に離婚を切り出すのですが、それを聞いた妻が「なぜ」という言葉のみで、返答出来ない夫に何ら心乱す事なく、快く承諾します。ただ離婚の条件は「1ヶ月間だけ新婚の頃のように入浴してから寝室に行く時、ベッドまで抱いて連れて行って欲しい。」だけでした。夫はそれだけすれば離婚が出来るかとの条件を呑むことにします。その後妻を毎晩ベッドまで連れて行くのですが、日に日に身体が衰え、痩せて顔のシワも深くなっていきます。そんな中で長年連れ添った思い出が走馬灯のように蘇り悲哀の感情と愛おしい感情に気づきます。そして夫は、過ちに気づき、自分の気持ちを伝えて離婚は出来ないと涙ながら訴えます。それを聞いた妻は複雑な心境の中、喜びと悲しみで、泣きながら一人でベッドに戻ります。夫はすぐに、すまなかったと気持ちを伝えるために妻の寝室まで行くのですが、仕事があるため言葉を掛けられず寝室のドアを閉め、そのまま出勤します。そして仕事を終え、帰宅すると妻は寝室で亡くなっていたのです。寝室のテーブルの上には、癌を発症し末期である事を夫に伝えられず悩んでいた事、また離婚を告げられた時の心境、残される子供に対する感情、最後に子供に良き父母であったと良い夫婦を演じたかった等書かれた手紙を見つけます。そして妻が死期を知って最後は夫や子供に尽くしたいと夫の我儘(わがまま)を受け入れ我慢をした事を知ります。確か、話はこんな内容だったと思いますが、一時の迷いでこうした大切なひとを深い寂寞(せきばく)に落とす行為は、全く愚かなことです。生きている事は、素晴らしい事です。こんな話が夫婦一生仲良く、また介護で苦勞している方に日々を大切に過ごすヒントになればと願っています。